

# 第1章 新発田市の景観

## 第1節 新発田市の景観の特徴

新発田市の景観は、城下町四百年の歴史に育まれた「歴史的景観」と、市街地周辺に広がる広大な農地や山々、白砂青松の海岸線や加治川の桜並木などから形成される「自然景観」が中心となり、これらが“新発田らしさ”を演出している。

「歴史的景観」は、三階櫓や辰巳櫓が復元され、シンボル性が高まった新発田城や、市街地に点在する清水園、足軽長屋、寺社など、さらに豪農の館「市島邸」や五十公野地区を含めた会津街道沿線などに残る歴史を感じさせる建造物により構成されている。

「自然景観」は、市街地を取り囲む広大な農地と、その背後の二王子岳、飯豊連峰、五頭連峰、櫛形山脈といった山々が織りなす田園景観や、藤塚浜における白砂青松と形容される美しい海岸線、かつて長堤十里の桜を誇った清流加治川の桜並木、人々の生活と深く結びついてきた五十公野山、真木山、本田山といった里山、水生植物と水鳥の良好な生息環境になっている福島潟など、豊かな自然環境により構成されている。



## 第2節 新発田市の景観形成に向けたコンセプト及び方向性

新発田市を特徴づける魅力あふれる景観は、人々の生活とともに、地域の歴史・伝統文化や自然環境により育まれた「新発田市の財産」であり、これらの景観を守りながら、より良い形で後世に伝えていくことは、非常に重要な意味を持つものである。

「新発田市まちづくり総合計画」においても、「歴史・田園景観の保全と形成」という施策のもと、美しい景観形成に対する市民の意識の高揚と醸成を図るとともに、歴史的な街なみ及び田園を中心とした自然景観を守り、新発田らしい個性ある景観形成を推進することとしている。

そこで、人々の生活と調和した誰もが潤いと安らぎと誇りを感じる景観を創り、次世代へ継承するとともに、来訪者に対しても親しみと憩いを共感させる景観を育むことを目指し、市民・事業者・行政<sup>\*</sup>の共創<sup>\*</sup>による、「守り、活かし、創る景観まちづくり」を景観形成に向けたコンセプト（基本方針）とする。

### 【コンセプト】

城下町の歴史文化と豊かな自然を守り、活かし、創る  
市民共創の景観まちづくり

### 【方向性】

#### 1. 「守る」景観まちづくり

新発田市のシンボルである新発田城などにより構成される歴史的景観や、春の桜、夏の海、秋の里山、冬の雪山といった四季折々の多彩な自然景観を後世に引き継ぐ財産として「守る」景観まちづくりを行う。

#### 2. 「活かす」景観まちづくり

新発田城をはじめとする歴史的景観や、田園景観を中心とする自然景観は、新発田市の魅力の一つである。そこで、これら歴史的景観と自然景観を「活かす」景観まちづくりを行う。

#### 3. 「創る」景観まちづくり

景観まちづくりの推進には、市民・事業者・行政<sup>\*</sup>の協力が必要である。そこで、新発田市の歴史的景観や自然景観を守り、活かすため、新発田市独自のルールのもと、「共創<sup>\*</sup>」により良好な景観を「創る」景観まちづくりを行う。

### 第3節 景観の特徴からのゾーニング及び各ゾーンの目指す方向性

本市各地域の景観の特徴からゾーニング\*を行い、各ゾーンの「目指すべき方向性」及び「方向性から導き出されるキーワード」を以下にまとめた。

地区	各ゾーンの特徴	主な景観資源*	各ゾーンの方向性	方向性のキーワード(景観)
歴史ゾーン	新発田市のシンボルである新発田城や、寺社が建ち並ぶ寺町や清水谷周辺*は、城下町四百年の歴史に育まれた歴史・文化資源が点在しており、城下町の雰囲気を持つ歴史的景観を形成している。また、一般住宅においても、前庭の植栽や瓦屋根などといった建築物の形態*や色合いにより、落ち着きと風格ある歴史を感じるものも多く、新発田市で最も歴史を感じさせるゾーンとなっている。 一方で、新発田城と寺町・清水谷周辺*の間には、市役所や市民文化会館などの公共施設が集積した地区があり、歴史的景観の連続性が喪失しているが、落谷虹児記念館やカトリック新発田教会などの洋風建築もあり、大正・昭和の情緒を醸し出している一面もある。 また、ゾーンのほぼ中央には東西に、駅前から続く大通りが通っており、商業施設が建ち並んでいる。	新発田城、寺町、清水園、足軽長屋、諏訪神社、白壁兵舎、落谷虹児記念館、カトリック新発田教会など	「新発田城、寺町・清水谷周辺*」の歴史ある雰囲気に調和した街なみづくりを進めるとともに、公共施設は、新発田城と寺町・清水谷周辺*の連続性、商店街においては、個性と賑わいある景観を目指す。	歴史的景観
				公共施設景観
				商業景観
市街地ゾーン	歴史ゾーンを取り囲む市街地には、一部、歴史的な建物などがあるものの、全体的には近代的な住宅や商店が建ち並んでいる。その中で、市の玄関口となっているJR新発田駅前、県立新発田病院が移転新築され、土地区画整理事業が進められるとともに、駅舎を含めた新発田駅前周辺整備が計画されており、新たな街の顔として生まれ変わろうとしている。また、新発田駅から延びる駅前通り沿線は新発田市の中心商業地として賑わってきたが、近年は空き店舗などもみられ、賑わいを喪失してきている。現在、景観形成に向けた取り組みとして、電線類の地中化やアーケードの整備などが進められている。	JR新発田駅、駅前通り、駅前通の商店街、新発田中央公園など	住宅地においては落ち着きある景観づくりを進めるとともに、商店街においては、新発田市の顔にふさわしい、個性と賑わいある景観を目指す。	市街地景観 商業景観
街道ゾーン	会津街道沿いは、一部に松並木が江戸時代の面影を残しているものの、街道全体としては歴史が感じられる景観は少ない。しかし、街道沿いの五十公野、米倉、山内、上赤谷などの地区には、歴史を感じさせる民家や寺社が残っており、落ち着きのある景観を形成している。	会津街道、米倉集落、山内集落、上赤谷集落など	沿道集落では歴史を感じさせる街なみづくりを進めるとともに、歴史ある会津街道にふさわしい景観を目指す。	歴史的景観
沿道ゾーン	市街地外縁の幹線道路の沿道は、通過する交通量が多く、多くの通行者に新発田市を印象づけることのできるゾーンである。市街地外縁に位置することから、広大な農地と山々が織りなす自然景観の視点場*として位置付けることが可能であるが、現状では沿道に建ち並ぶロードサイド型商業施設*の建物や看板により乱雑な景観となっているほか、山々への眺望が阻害されている。	国道7号、南バイパスなど	多くの人々に遠景の山なみが織りなす自然を感じさせる沿道景観を目指す。	沿道景観
田園ゾーン	市街地周辺は、新発田市の自然景観の中心となる広大な農地と点在する集落、背景の山々が織りなす田園景観となっており、春は新緑、夏の深緑、秋の黄金、冬は白銀といった四季折々の表情を持っている。昔ながらの田園風景を取り戻すため、はさ木の植栽を行ったりしているところもある。	市島邸、れんぎょう街道など	地域住民の心に残る原風景である蒲原平野の田園景観を目指す。	自然景観
山脈ゾーン	二王子岳などの山々は、新発田市の全域から眺めることが可能であり、あらゆる新発田市の景観の背景となっている。これらの山々は新発田市の豊かな自然環境を感じさせる重要な景観要素となっている。	二王子岳、飯豊連峰、五頭連峰、櫛形山脈、剣龍峡など	四季折々の美しさを讃える自然豊かな山なみ景観を目指す。	自然景観
海岸・砂丘ゾーン	新発田市の海岸線は、白い砂浜と緑の松林のコントラストや、日本海に沈む夕日などの美しい自然景観を形成している。また、県立紫雲寺記念公園が整備され、多くの人々が訪れる。海岸線から続く砂丘地は、松林が広がり海辺を感じる景観となっている。	藤塚浜、松林、県立紫雲寺記念公園、清瀧など	白砂の海岸線や松林が広がる砂丘地の景観を目指す。	自然景観
河川ゾーン	かつて「長堤十里の桜」を誇った加治川の桜並木は、平成元年から国の桜つつみモデル事業によって再生が進められている。その桜つつみの再生により、河川と背後の山々が織り成す、清流を感じさせる景観が形成されつつある。	加治川、加治川桜堤など	桜並木や遠景の山々と調和した河川景観を目指す。	自然景観
里山ゾーン	五十公野山は、市街地に隣接した里山として、古くから人々の生活に密接に関係する身近な自然景観を形成してきた。現在も五十公野公園として多くの利用者が訪れるなど憩いの場となっており、市街地に比較的近い、まとまった緑として重要な景観要素となっている。また周辺には、古四王神社、豊田神社、千光寺などの歴史的な寺社が点在し、落ち着きのある景観を形成している。	五十公野山、升瀧、五十公野御茶屋、古四王神社、豊田神社、千光寺など	自然と触れ合える里山を市民の憩いの場として活用しながら、緑溢れ、歴史ある景観を目指す。	自然景観
				歴史的景観
温泉ゾーン	月岡温泉は、周囲を真木山や本田山などの里山に囲まれた自然豊かな温泉街であり、多くの観光客が訪れている。温泉街は、里山の緑を背景に、大規模な旅館等が建ち並ぶ街なみとなっている。	月岡温泉、真木山、本田山、月岡カリオンパークなど	周囲の山なみを背景とする自然を活かした温泉街景観を目指す。	自然景観 市街地景観
湖沼ゾーン	豊かな自然を目当てに多くの人々が訪れる福島潟に隣接するゾーンは、水生植物と水鳥の良好な生息環境になっている。また、潟の周辺は、農地が広がる自然景観を形成している。	福島潟	水鳥が飛来し、植物が繁茂する湿地の自然景観を目指す。	自然景観

[目指す]とは・・・歴史的景観や自然景観等を「守る、活かす、創る」の3つの観点を合わせもつ。

各ゾーンと景観資源\*の概要を図にまとめると、次のとおりである。

